

鹿角河川漁業協同組合植樹祭に参加および森林教室を開催しました（令和元年9月26日（木））

周りの木々も少しずつ色づきはじめ、心地よい秋空のもと署員4名で植樹祭に参加しました。

この植樹祭は毎年鹿角市河川漁業協同組合が米代川上流域の牧草地跡を森林に戻すという取り組みで、平成20年から鹿角市外で行っていて、今年で11回目となりました。一緒に参加した鹿角市立大湯小学校の5年生19名と一緒に、今年もサクラとブナを合わせて700本植えました。



（大湯小学生とともに植樹祭に参加）

今日植えた木が大きくなり、植樹活動が米代川および日本海に豊かな漁場を育んでくれることを期待したいです。

午後は、中滝ふるさと学舎にて、当署職員による森林教室を開催しました。この森林教室では、鹿角市の身近な自然や、森林が持つ様々な働きについて学んでいただきました。豆知識クイズを行った際に、鹿角市の木である「ナナカマド」を知っている児童がいて、森林への関心の高さをうかがい知ることができました。

この後は、児童たちに、林業体験をしてもらおうと測樹作業を体験してもらいました。私たち職員が実際に使っている道具を使用し、ふるさと学舎正面に生育する針葉樹や広葉樹を計測してもらいました。最初は、戸惑っていたものの、数本測ると慣れたようで、自ら目測で予想した後、協力し合いながら次々と測樹作業をこなしていきました。最後に、職員が測った数値を発表し、測った木の中で



（森林教室の様子）

一番大きな木が家を建てる場合に何本必要なのかを説明しました。

今日の鹿角市河川漁業協同組合植樹祭や森林教室を通じて、児童は森林の役割や木材の大切さなどを学んでくれたようです。今後も、当署はこのようなイベントを開催し、森林・林業の指導及び普及に努めてまいります。